

研究論文

中国語話者における日本語の複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の前置語の選択 杉村 泰

3言語間の語彙的結合

—中国人日本語学習者によるL3日本語の外来語処理におけるL1中国語とL2英語の影響— 玉岡 賀津雄

中国人日本語学習者による擬音語と擬態語の習得に影響する要因

馮 亜静・玉岡 賀津雄

中国人日本語学習者は日本語の漢字の書き取りが正しくできるのか?

張 婧禕・玉岡 賀津雄・初 相娟

中国語母語話者は和製漢語を正しく意味推測できるのか

—日本語未習者への調査から—

小森 和子・早川 杏子・三國 純子

中国語母語話者による日本語名詞アクセントの生成

—アクセント情報とモデル音声の影響—

王 睿来・林 良子・磯村 一弘・新井 潤

授業に必要な中国語の豆知識

第9回 使役表現

建石 始

中国語話者の目から見た日本語の不思議(2)

中国語話者用日本語教育文法における

「使役」

張 麟声

研究会の組織

研究発表応募規定

会誌投稿規定

大会委員会からの便り

編集後記

建石 始

中国語話者のための日本語教育研究

中国語話者のための日本語教育研究

中国語話者のための日本語教育研究会編

第 9 号



9784905013976



1920087015003

ISBN978-4-905013-97-6

C0087 ¥1500E

定価：本体価格1500円+税

日中言語文化出版社

日中言語文化出版社

中国語話者のための日本語教育研究会

The Study Group for Teaching Japanese to Chinese Speakers

目次 CONTENTS

研究論文

Research articles

中国語話者における日本語の複合助辞「～てならない」、
「～てたまらない」、「～てしかたがない」の前接語の選択

杉村 泰 1

On Choice of the Verbs and Adjectives followed by the Japanese Compound
Auxiliary “-te naranai”, “-te tamaranai”, “-te shikataganai”
SUGIMURA, Yasushi

3言語間の語彙的結合

—中国人日本語学習者によるL3日本語の外来語処理におけるL1中国語とL2英語の影響—

玉岡 賀津雄 17

Lexical connections among three languages: The effects of L1 Chinese and
L2 English on the processing of L3 Japanese loanwords by native Chinese
speakers learning Japanese

TAMAOKA, Katsuo

中国人日本語学習者による擬音語と擬態語の習得に影響する要因

馮 亜静・玉岡 賀津雄 35

Factors for acquiring onomatopoeic and mimetic words by native Chinese
speakers learning Japanese

FENG, Yajing, TAMAOKA, Katsuo

中国人日本語学習者は日本語の漢字の書き取りが正しくできるのか？

張 婧禕・玉岡 賀津雄・初 相娟 53

Can Chinese Japanese learners write Japanese kanji correctly?

ZHANG, Jingyi, TAMAOKA, Katsuo, CHU, Xiangjuan

中国語母語話者は和製漢語を正しく意味推測できるのか

—日本語未習者への調査から—

小森 和子・早川 杏子・三國 純子 70

Can Chinese native speakers with no experience of learning the Japanese
language infer the meaning of Wasei-Kango?

KOMORI, Kazuko, HAYAKAWA, Kyoko, MIKUNI, Junko

中国語母語話者による日本語名詞アクセントの生成
—アクセント情報とモデル音声の影響—
王 睿来・林 良子・磯村 一弘・新井 潤 85
Production of Japanese noun accent by Chinese native speakers: The
influence of accent information and model speech
WANG, Ruilai, HAYASHI, Ryoko, ISOMURA, Kazuhiro, ARAI, Jun

授業に必要な中国語の豆知識

Useful information about the Chinese language

第9回 使役表現 建石 始 100
Paper 9 Causative expressions
TATEISHI, Hajime

中国語話者の目から見た日本語の不思議 (2)

Aspects of the Japanese language that are mysterious to Chinese speakers

中国語話者用日本語教育文法における「使役」
張 麟声 105
“Causative” in Japanese pedagogical grammar for Chinese speakers
ZHANG, Linsheng

研究会の組織 116
Management of the study group

研究発表応募規定 118
Notes for contributors

会誌投稿規定 120
Notes for contributors

大会委員会からの便り 122
Notes from the study group meeting committee

編集後記 建石 始 123
Postscript
TATEISHI, Hajime

中国語話者における日本語の複合助辞「～てならない」、 「～てたまらない」、「～てしかたがない」の前接語の選択

杉村 泰 (名古屋大学)

要 旨

日本語の「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」は、いずれも中国語の“～得不得了”と似た意味を持つ。そのため中国語話者は3つの表現を区別しにくく、中国語の“～得不得了”に付く動詞や形容詞は日本語でも使えると判断しがちである。そこで本稿では日本語話者と中国語話者に3つの表現の選択テストを実施して、中国語話者における“～得不得了”の影響について論じる。

キーワード：前接語、「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」、「～得不得了”

1 はじめに

日本語の複合助辞「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」は、いずれも動詞や形容詞の連用形に付いて感情や感覚の程度が甚だしいことを表す表現である。これらは中国語の“～得不得了”と似た意味を持つため¹、中国語話者は3つの表現の違いを区別しにくい上に、中国語の“～得不得了”に付く動詞や形容詞は対応する日本語でも使えると判断しがちである。例えば、(1)は「～てしかたがない」でも間違いではないが、副詞を使って「とても～」と言った方が自然である。しかし、中国語では“烦恼得不得了”と言えるため、中国語話者はこのような表現を使ったと考えられる。

(1)でも、私としてはどうしようと悩んでしょうがない(→とても悩む)のです。(3年生、湖南大学学習者中間言語コーパス²)

1 グループ・ジャマシイ(2001)には「～てならない」、「～てたまらない」、「～てしかたがない」の中国語訳として、いずれも“～得不得了”が挙げられている。

2 2003年9月に中国の湖南大学外国語学院日語系に入学した94人の学生(中国語話者)の入学から卒業までの19回の作文と7回の会話が収められたコーパス。

- phonological priming for Japanese-English bilinguals: Evidence for integrated phonological representations. *Language and Cognitive Processes*, 27, 1563-1583.
- Patterson, K., Nestor, P. J., & Rogers, T. T. (2007) Where do you know what you know? The representation of semantic knowledge in the human brain, *Nature Reviews Neuroscience*, 8, 976-987.
- Schelleter, C. (2002) The effect of form similarity on bilingual children's lexical development. *Bilingualism: Language and Cognition*, 5, 93-107.
- Schwartz, A. I., & Kroll, J. F. (2006) Bilingual lexical activation in sentence context. *Journal of Memory and Language*, 55, 197-212.
- Tomoda, T. (1999) The impact of loan-words on modern Japanese, *Japan Forum*, 11, 231-253.
- van Hell, J. G., & de Groot, A. M. B. (1998) Conceptual representation in bilingual memory: Effects of concreteness and of cognate status in word association. *Bilingualism: Language and Cognition*, 1, 193-211.
- Voga, M., & Grainger, J. (2007) Cognate status and cross-script translation priming. *Memory & Cognition*, 35, 938-952.
- West, B. T., Welch, K. B., & Gatecki, A. T. (2007) *Linear mixed models: A practical guide using statistical software*. Boca Raton, FL: Chapman & Hall/CRC.

中国人日本語学習者による擬音語と擬態語の習得に影響する要因

馮 亜静 (名古屋大学大学院)・玉岡 賀津雄 (名古屋大学)

要 旨

中国人日本語学習者にとって、日本語オノマトペは習得が難しい語彙であると言われている。そこで、本研究では、擬音語と擬態語の両用のオノマトペの習得における音韻類似性と語彙知識の影響を決定木分析で解析した。中国語を母語とする141名の日本語学習者を対象に語彙テストおよびオノマトペのテストを実施した結果、擬態語より擬音語のほうが習得されやすく、さらに擬音語と擬態語の習得に及ぼす影響要因が異なっていた。擬音語の習得には音韻類似性が、擬態語の習得には語彙知識が強く影響した。擬音語は、日中両言語で類似した擬音語が存在すると習得が促進された。一方、擬態語は、学習者の語彙知識に支えられて習得されていた。また、日中の擬音語が音韻的に類似している場合は、その擬態語としての使用の理解を阻害する傾向もみられた。

キーワード：中国人日本語学習者、擬音語、擬態語、音韻類似性、語彙知識

0 はじめに

ある語とその意味の習慣的な関係を超越して特定のイメージを喚起する事象は、音象徴と呼ばれる(田守・ローレンス 1999)。オノマトペは、その音象徴的な特徴から、一般語彙に比べて、より言語音と特定の意味との有契性が大きい(Hashimoto, Usui, Taira, Nose, Haji & Kojima 2006)。日本語を母語環境として成長する乳児は音象徴の感覚を身につけ、音象徴語を指示対象と即時に組み合わせて新しい語の意味を理解する(Imai, Kita, Nagumo & Okada 2008)。また、日本語を母語とする幼児は「臨時的擬音語>擬音語>擬態語>擬情語>一般語」という「語彙的類似性の階層」に示す順序に従って、オノマトペを習得していると言われている(Akita 2009)。しかし、中国人日本語学習者は乳幼児期に日本語での音象徴の感覚が形成されていない

ため、オノマトベを感覚的に特定の語と結び付けることができないと思われる。

中石・佐治・今井・酒井 (2011) は、オノマトベの意味と対応する動画を中国人日本語学習者にランダムに呈示し、オノマトベの使用を誘出するという産出課題と、オノマトベについて使用文脈を想起する作文課題を実施し、学習者のオノマトベの使用状況を調査した。その結果、2つの課題の正答率がいずれも低く、動画による産出課題は24.5%、作文課題は28.7%しかなかった。しかも、作文課題で正答したオノマトベが動画課題では産出できず、オノマトベの理解が実際の使用場面に直結していないことがわかる。日本語を学ぶ中国人日本語学習者にとって、オノマトベは習得の難しい語彙であると考えられる。

中国人日本語学習者は、オノマトベを一般語彙として学習している可能性があると言われている (飯田・玉岡・初 2012)。飯田他 (2012) では、中国人日本語学習者を対象として、読解能力とオノマトベの意味理解との関係を検討したところ、オノマトベの意味理解が読解と強く関連している。読解力の高い学習者のほうがオノマトベをより良く理解していた。しかも、中国語と類似する日本語オノマトベが学習者に理解されやすい傾向があった。これにより、第2言語習得の場合、日本語オノマトベが学習によって習得される語彙項目であることが示唆された。中国人日本語学習者は、語彙知識が豊かになると共に、オノマトベの理解も促進されていると考えられ、オノマトベも一般の語彙として学習されていると予想される。

また、日中両言語の擬音語が類似している場合には、中国人日本語学習者は中国語の擬音語の発音と類似した日本語のオノマトベを産出する傾向があることも指摘されている (金 1989)。これは、中国語の音象徴的な感覚をそのまま日本語に適用し、中国語から日本語のオノマトベを意味的に類推しようとする傾向を示している。しかし、両言語間で発音が類似し、意味が一致するオノマトベは稀なので、この方略はあまり成功しないのではないと思われる。

そこで、本研究では、日本語の語彙知識と日中オノマトベの音韻類似性という2つの要因に焦点を絞ってオノマトベの習得を考察する。まず、中国人日本語学習者を対象に、テストによって語彙知識を測定する。同時に、擬音

語 (「がんがん缶を打ち鳴らす) と擬態語 (「頭ががんがん痛む) として使用される同一のオノマトベ (擬音・擬態両用のオノマトベ) の理解をテストによって測定する。そして、日本語の語彙知識と日中両言語の音韻類似性が、第二言語としての日本語の擬音語と擬態語の習得にどう影響するかを検討する。

1 研究方法

1.1 調査対象語の選定

調査対象となるオノマトベは、日本語学習辞書支援グループの作成した『日本語教育語彙表 ver. 1.0』 (<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV.html>) を基に選定した。この語彙表は、約18,000語の日本語教育用の語彙を収録しており、5名の日本語教師によって、これらの語彙の難易度が判定されている。

表1 テストに使用した擬音・擬態語両用のオノマトベ一覧

オノマトベ	日本語教師の判断 ¹	教科書での有無 ²	旧JLPTでの有無 ³	新聞での使用頻度 ⁴	日本語に対応する中国語の擬音語 ⁵
かちかち	中級	無	無	23	啣啣啣啣 /didadida/
こつこつ	中級	無	無	423	啣啣 /kongkong/
ぱちぱち	中級	無	無	11	啪啪 /papa/
びりびり	中級	無	無	20	刺啦刺啦 /cilacila/
ぱらぱら	中級	無	無	1064	啣啣啣啣 /padapada/
つるつる	中級	無	無	161	啣溜啣溜 /chiliuchiliu/
がんがん	上級	無	無	89	啣啣 /guangguang/
さらさら	上級	無	無	379	沙沙 /shasha/
ばんばん	上級	無	無	30	梆梆 /bangbang/
ぱたぱた	上級	無	無	112	扑棱扑棱 /pulengpuleng/
ぺたぺた	上級	無	無	9	啪啪 /papa/
がたがた	上級	無	無	35	轰隆轰隆 /honglonghonglong/

¹ 『日本語教育語彙表 ver. 1.0』に掲載された難易度。

² 実験を行った大学の日本語専攻生用の教科書にあるかどうか。

³ 旧日本語能力試験 (JLPT) にリストされているかどうか。

⁴ 1998年から2015年までの『毎日新聞』での出現頻度。

⁵ 日本語の擬音語と同じ意味の中国語の擬音語。

表1に示したように、この難易度指標から中級と上級であると判定され、かつ典型的なかたちである「ABAB」型オノマトベから、「かちかち」「がんがん」などの擬音・擬態両用のオノマトベを難易度別に6語ずつ選定した。調査を行った中国の大学で使用されている教科書は、『みんなの日本語1～2』『総合日本語1～4』『日本語総合課程5～8』『中級から学ぶ日本語』『上級で学ぶ日本語』『日漢筆訳教程』『日本文学史』『日本近現代文学作品鑑賞』である。これらの教科書に、オノマトベの記載はなかった。したがって、中国人日本語学習者は、これらのオノマトベを大学の日本語の授業で学習することはないと思われる。おそらく教室外での自然な習得に依存していると考えられよう。

旧日本語能力試験出題基準の改定版（国際交流基金・日本国際教育協会2007）にも、これらのオノマトベは掲載がなかった。そのため、日本語能力試験の準備のための学習でも、これらのオノマトベに接する機会はないと思われる。

さらに、新聞でのオノマトベと動詞の共起と成人の日本語母語話者のオノマトベから連想される動詞の産出をエントロピーで示し、両者の相関を調べると、ピアソンの積率相関係数 ($r=0.83, p<.001$) は非常に高かった（玉岡2017）。そこで、本研究でも、1998年から2015年の18年間の『毎日新聞』の記事（MeCab計算の合計487,198,373形態素数）で、出現頻度を独自に調べた結果、表1のように、「ぺたぺた」の9回から「ばらばら」の1,064回までの広がりがあった。表1からわかるように、頻度の差があるものの、これらのオノマトベが新聞で頻繁に使われていることがわかる。

1.2 日中音韻類似性の測定

中国語にも擬音語（中国語では「象声詞」と呼ばれる）がある。そこで、選択した12語のオノマトベが中国語と同じ意味を持つ擬音語が存在するかどうかを、日本の大学で日本語を専攻している27名の中国人日本語学習者に判断してもらった。そして、存在すると判断した日本語学習者に、日本語のオノマトベと同義の中国語の擬音語を調査用紙に記入してもらった。方言の影響で、書かれた中国語の中で辞書に記載されていない単語があった。し

たがって、上海辞書出版社の『現代漢語大詞典』の意味記述に基づいて、書かれた中国語の擬音語が日本語の擬音語に対応するかどうかを確認しながら、辞書に記載のある中国語の擬音語を抽出した。そして、抽出された中国語から日本語のオノマトベと同じ意味である出現頻度の最も高い擬音語、すなわち中国人日本語学習者が最も想起しやすい擬音語を日本語に対応する擬音語として選定した。たとえば、「缶をがんがん打ち鳴らす」という問題文の「がんがん」であれば、“咣咣”/guang guang/を書いた中国人日本語学習者が最も多かったので、“咣咣”を日本語の擬音語に対応する中国語の擬音語として選定した。

さらに、中国語に存在する擬音語を挙げてもらった27名の日本語専攻の学生とは異なる35名の中国人日本語学習者（男性6名、女性29名）を対象として、選定された日本語と中国語の擬音語を利用し、日中両言語の擬音語の音韻類似性を、「全然違う」の0から「まったく同じ」の6までの7段階の主観尺度で判断してもらった。これらの35名は、最年少者は19歳9カ月で、最長年者は33歳9カ月であった。平均年齢は24歳10カ月で、年齢の標準偏差は2年6カ月である。全員が日本語能力試験N1に合格している。

1.3 日中音韻類似性によるオノマトベのグループ化

表1に示したように、中国語母語話者（超上級日本語学習者）による中国語と日本語で発した12ペアの擬音語の音声を録音した。そして、35名の日本語学習者にこれらの12ペアの擬音語の録音を聴かせて、両言語の発音がどれくらい似ているかを7段階尺度（0から6）で評価してもらった。

12語のオノマトベの分布は幅広く、偏りがみられた。そこで、やや得点に歪みがあるものの、「高類似」「中類似」「低類似」「超低類似」という4つのグループに分けた。高類似は、平均評定値が4以上で、「ばんばん」と「がんがん」の2語 ($M=4.87, SD=0.83$, M は平均で、 SD は標準偏差) である。中類似は、平均評定値が4から3までで、「ばちばち」「つるつる」「さらさら」の3語 ($M=3.60, SD=0.27$) である。低類似は、平均評定値が2から3までで、「こつこつ」「ぺたぺた」「ばらばら」の3語 ($M=2.74, SD=0.23$) である。超低類似は、平均評定値が2を下回った「かちかち」「がたがた」「びりびり」「ば

たばた」の4語 ($M=0.75, SD=0.42$) である。一元配置分散分析で、音韻の類似度の違いを検討した。その結果、グループの主効果が認められた [$F(3, 136)=123.38, p<.001$]。さらに、シェフェの多重比較の結果、4グループのすべての組み合わせで有意な違いがみられた。音韻類似度が、超低類似、低類似、中類似、高類似の順に高くなっており、音韻類似性に応じて、12語のオノマトペを4グループに分類することの妥当性が示された。

2 第二言語における日本語オノマトペの習得

2.1 調査協力者

2016年10月に、中国の華東地域にある大学で日本語を専攻する2年生から4年生を対象に、オノマトペのテストと語彙テストを行った。1年課程修了生(2年生)60名、2年課程修了生(3年生)49名、3年課程修了生(4年生)32名で、合計141名(14名が男性、127名が女性)の日本語学習者を対象とした。これらの学生の年齢は、17歳5カ月から23歳0カ月に分布し、平均は20歳8カ月(標準偏差は1年0カ月)であった。全員が日本に留学した経験はなかった。

本研究では、141名の大学生に対して、オノマトペの習得に関する質問紙調査も行った。「どこで日本語オノマトペを見たり聞いたりしていますか」という質問項目では、「学校・先生」と答えた学生は60名しかなかった。しかし、「漫画・アニメ」は100名、「ドラマ・映画」は97名であったが、これらの両方またはいずれかと答えた学生は125名であった。質問紙調査の結果から、中国人日本語学習者は主に教室外の環境で日本語オノマトペに接していると言えよう。本研究では、こうした教室外の習得を「自然習得」と呼ぶことにする。

2.2 調査用のテストの作成

2.2.1 日本語の語彙知識を測定する語彙テスト

語彙力の異なる学習者のオノマトペ習得状況を考察するために、本調査では、まず、宮岡・玉岡・酒井(2011)の語彙テストを利用して調査対象者の語彙知識を測定した。この語彙テストは、動詞、名詞、形容詞、機能語とい

う4つの品詞の下位カテゴリーからなり、各12問の合計48問のテストとして構成されている。これらの問題は、短文の()に入る適切な語を4つの選択肢から選んで答える形式である。たとえば、「あの建物はとてもおしゃれで()。」という文であれば、()に入る語として、「モーターだ」「ハンサムだ」「モダンだ」「バランスだ」から適切な語を選択することが求められる。これは外来語の問題で、「モダンだ」が正しい答えである。本研究では、中国人日本語学習者141名にこの語彙テストを実施した。その結果、クロンバックのアルファ(Cronbach's α)信頼度係数は $\alpha=0.88$ で、非常に高かった¹。

2.2.2 日本語オノマトペの知識を測定するオノマトペのテスト

日本語学習者のオノマトペの習得状況を調べるために、選定された中級と上級それぞれ6語ずつの擬音・擬態両用のオノマトペについて、表2のように擬音語と擬態語の用法を別々にして問題を作成したので、各2問ずつとなり、合計24問のテストとなった。宮岡他(2011)の語彙テストと同様に、オノマトペの問題も4つの選択肢から適切な語を選ぶ四者択一の形式とした。調査では、宮岡他(2011)の語彙知識を測定するための48問とオノマトペの知識を測定するための24問の合計72問を、ランダムに配置してテストを構成した。テストの採点は、1問の正答につき1点で、語彙テストの満点は48点で、オノマトペのテストの満点は24点であった。

問題文の語彙の難度レベルは、「日本語読解学習支援システム・リーディングチュウ太」(2016年11月5日の最終アップロード版、<http://language.tiu.ac.jp/>、2017年11月26日にアクセス)によると、名詞の級外は「焼肉」だけで、N5相当語彙が15語(時計、水、窓、お金、子ども、目、電気、頭、風、木、机、鳥、仕事、顔、家)、N4相当語彙が6語(ガラス、牛、葉、髪、地震、蕎麦)、N2・N3相当語彙は6語(用紙、豆、床、缶、羽、絵の具)で、N1レベルの語彙はなかった。形容詞については、「忙しい」がN5で、「怖い」がN4であった。動詞では、級外が「揺らす」「解体する」の2語だけで、N4相当語彙が7語(鳴る、落ちる、濡れる、滑る、揺れる、打つ、塗る)、

1 宮岡他(2011)は、中国の大学で学ぶ281名の日本語学習者を実施して信頼性を調べているが、クロンバックのアルファ信頼度係数は $\alpha=0.74$ であった。

N 2・N 3 相当語彙が 10 語（凍る、叩く、拍手する、破る、流れる、食う、痛む、鳴らす、注文する、震える）、N 1 相当語彙が 1 語（貯める）であった。

表 2 擬音・擬態両用のオノマトペの問題文、正答および誤りの選択肢

難易度	正答	タイプ	問題文	誤りの選択肢 (3つ)
中級	かちかち	擬音語	時計が () 鳴る。	さらさら/はらはら/ばらばら
		擬態語	水が () に凍る。	どろどろ/ふわふわ/こりこり
	こっこつ	擬音語	窓ガラスを () 叩く。	しくしく/つるつる/だらだら
		擬態語	お金を () 貯める。	ざらざら/だぶだぶ/からから
	ばちばち	擬音語	子供たちは () 拍手する。	はらはら/からから/ざりざり
		擬態語	目を () させる。	びりびり/とんとん/はらはら
	びりびり	擬音語	用紙を () 破る。	ざりざり/しくしく/ぐいぐい
		擬態語	電気が () 流れる。	ちよろちよろ/びしょびしょ/じろじろ
	ばらばら	擬音語	豆が () 床に落ちた。	しくしく/さらさら/ざりざり
		擬態語	牛が () に解体された。	かちかち/どろどろ/びかびか
上級	つつつつ	擬音語	() 蕎麦を食う。	はらはら/ぐるぐる/ざくざく
		擬態語	濡れた床は () して滑りやすい。	ふわふわ/ざらざら/ごわごわ
	がんがん	擬音語	缶を () 打ち鳴らす。	かさかさ/こそこそ/はらはら
		擬態語	頭が () 痛む。	ころころ/さらさら/かんかん
	さらさら	擬音語	風が木の葉を () 揺らす。	しくしく/びかびか/じりじり
		擬態語	髪が () している。	いらいら/ざらざら/ざりざり
	ばんばん	擬音語	机を () 叩く。	びんびん/ざらざら/ざりざり
		擬態語	焼肉を () 注文する。	びかびか/とんとん/ざらざら
	ばたばた	擬音語	鳥が羽を () させる。	はらはら/しくしく/ぐるぐる
		擬態語	仕事が忙しくて () している。	びかびか/がやがや/ざわざわ
	べたべた	擬音語	顔を () 叩く。	さらさら/ざらざら/こそこそ
		擬態語	絵の具を () 塗る。	くたくた/くらくら/ひたひた
	がたがた	擬音語	地震で家が () 揺れる。	ぼんぼん/さらさら/ちよろちよろ
		擬態語	怖くて () 震える。	こんこん/おいおい/きよろきよろ

ターゲットの 12 語を含んでオノマトペは全部で 50 語である。「リーディングチュウ太」によると、級外のオノマトペが 46 語であった。級内は、わずかに 4 語で、「はらはら」が 1 級で、「ふわふわ」「いらいら」「びかびか」は 2・3 級であった。ターゲット語には、級内のオノマトペに含まれていない。オノマトペの難易度については問題間で差がないように配置できていると考えられる。また、テストを実施する前に、5 名の日本語母語話者は 4 つの選択肢から正しいオノマトペが選択できるかどうかを確認してもらった。これらの日本語母語話者は、容易に正答を選ぶことができた。さらに、日本語能力試験を受けたことはないが、N 3 レベルくらいの 4 名の中国人日本語学習

者に 24 問の問題文を翻訳してもらった。その結果、すべての問題文を正しく翻訳できた。したがって、設問文は、容易に理解できるレベルなので、オノマトペの得点への影響はないと思われる。

なお、本研究のような四者択一のテスト問題は、日本語能力試験 (<http://jplt.jp/samples/forlearners.html/>) の問題例を参照) でも採用されており、日本語能力を測定する基準とされている。ランダムな正答確率は 25% であるが、全体として得点をみると、ほぼ正規分布を示すことが知られている。本研究では、四者択一のテストによるオノマトペの得点を「理解」と捉えて、「理解」を「習得」とみなしている。もちろんオノマトペの運用能力をもって習得する場合には、正確な「理解」と適切な「産出」の両面から測定すべきであろうが、この点については、今後の研究課題としたい。

2.3 語彙テストによる学習者の群分け

語彙テストの結果、最高点は 45 点、最低点は 8 点、平均は 25.75 点、標準偏差は 8.42 点であった。語彙テストの得点分布に従って、141 名の中国人日本語学習者を下位群・中位群・上位群に分けた。まず、平均の 25.75 点に近い 21 点から 29 点の学習者 50 名を中位群とした。平均は 24.72 点で、標準偏差は 2.61 点となった。30 点から最高得点の 45 点の範囲の学習者 48 名を上位群とした。平均は 35.31 点で、標準偏差は 4.34 点となった。20 点から最低点の 8 点までの 43 名を下位群とした。平均は 16.28 点で、標準偏差は 3.10 点となった。

3 データ分析

3.1 *t* 検定による擬音語と擬態語の習得の比較

擬音語と擬態語の両用のオノマトペを 12 対選んだので、日本語学習者 141 名の擬音語と擬態語の得点の違いを対応のあるサンプルの *t* 検定で比較した。その結果、擬音語 ($M=6.59, SD=2.16$) の得点のほうが擬態語 ($M=4.18, SD=2.15$) よりも有意に高かった [$t(140)=11.96, p<.001$]。この結果が示すように、全体としてみると、擬音語のほうが学習しやすい傾向がみられた。また、擬音語と擬態語の正答率には、弱い相関がみられた ($N=141, r=.39$,

$p<.001$)。

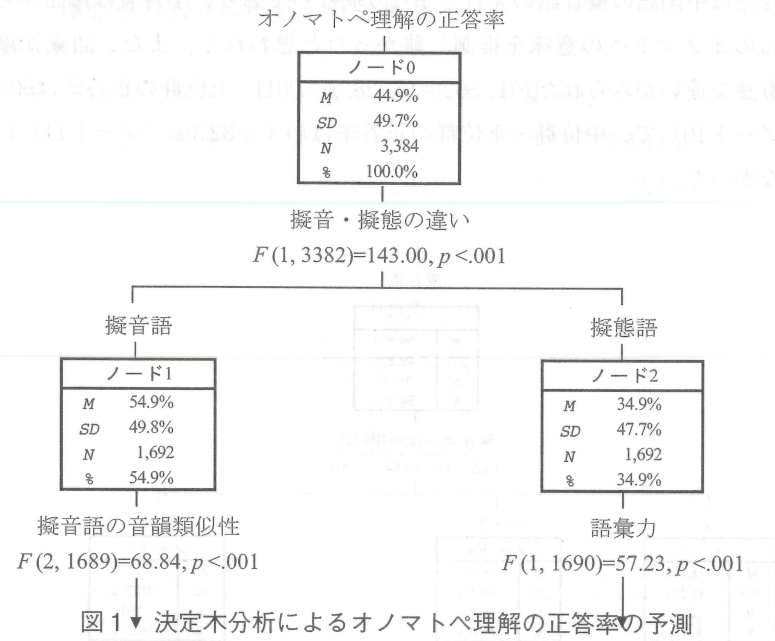
3.2 擬音語・擬態語の習得に影響を及ぼす要因

擬音語と擬態語の習得に影響する諸要因を検証するために、(1) 擬音・擬態語の違い、(2) 語彙知識(上位・中位・下位の3群)、(3) 擬音語の音韻類似性(「高類似」「中類似」「低類似」「超低類似」の4グループ)の3つの独立変数でオノマトペの正誤を予測する決定木分析(decision tree analysis)を行った。決定木分析は、複数の独立変数から特定の従属変数(または目的変数)を予測する分析である。より有意に従属変数を予測する独立変数から順に、階層的に要因を樹木のかたちで描いてくる。樹木の上部は下部より予測力が強い要因であり、下部の要因と上部の要因との相互作用が有意な場合には、枝が伸びる。また、樹木に含まれない独立変数は、有意に従属変数を予測しないことを意味する。本研究では、オノマトペの理解を、正答は1、誤答は0として、正誤の比率を予測する解析をした。従属変数が比率であるため、回帰分析とも呼ばれる。分析には、IBM-SPSS Statistics version 22.0で起動するIBM SPSS Decision Treesの統計解析ソフトを使用した。

3.3 決定木分析による擬音・擬態語習得の諸要因の違い

決定木分析の結果は、図1に示した。141名の中国人日本語学習者が、オノマトペ12語を擬態語と擬音語の使用でテストしたので、141(学習者)×12(オノマトペ)×2(擬音語と擬態語)で、合計は3,384の反応(項目)数(ノード0)となる。全体のオノマトペの正答率が44.9%でしかないことから、日本語学習者にとってオノマトペの習得は難しい項目の1つであると考えられる。

図1からわかるように、擬音語と擬態語の違いが最も強い要因であった[$F(1, 3382)=143.00, p<.001$]。擬音語は54.9%の正答率(ノード1)であったが、擬態語は34.9%の正答率(ノード2)でしかなかった。この結果は、対応のあるサンプルのt検定の結果と一致する。これは、日本語学習者が擬音語のほうが擬態語よりも習得しやすいことを示している。擬音語と擬態語の習得には別々の要因が影響していることが決定木分析で示された。したがって、擬音語と擬態語の正誤を決める要因について別々に考察していく。



3.3.1 擬音語の習得に影響する主要因

図2に示したように、擬音語の習得では、まず擬音語の音韻類似性が有意な予測変数となった[$F(2, 1689)=68.84, p<.001$]。高音韻類似性を持つ擬音語は最も中国人日本語学習者に理解されやすく、正答率が78.0%(ノード3)に達した。「高類似」グループの擬音語の習得には語彙力の影響がみられなかった。中類似度(「ぱちぱち」「つるつる」「さらさら」と低類似度(「こつこつ」「べたべた」「ばらばら」)を示した擬音語の正答率は58.3%(ノード4)とこちらも比較的に高かった。これらのオノマトペには、さらに語彙力が有意な予測変数となった[$F(1, 844)=31.35, p<.001$]。上位群・中位群の正答率が64.5%(ノード8)であるのに対して、下位群の正答率は44.2%(ノード9)であった。中位・上位群の学習者は下位群より「中・低音韻類似」グループの擬音語をよりよく習得していた。一方、「超低類似」

グループの擬音語の正答率はわずか38.3%（ノード5）であった。「超低類似」グループに属する「かちかち」「がたがた」「びりびり」「ばたばた」の4語は中国語の擬音語の発音とかなり異なっており、学習者は母語からこれらのオノマトベの意味を推測し難かったと思われる。また、語彙知識にも有意な違いがみられた $[F(1, 562)=17.328, p<.001]$ 。上位群の正答率は50.0%（ノード10）で、中位群・下位群の正答率はわずか32.3%（ノード11）に過ぎなかった。

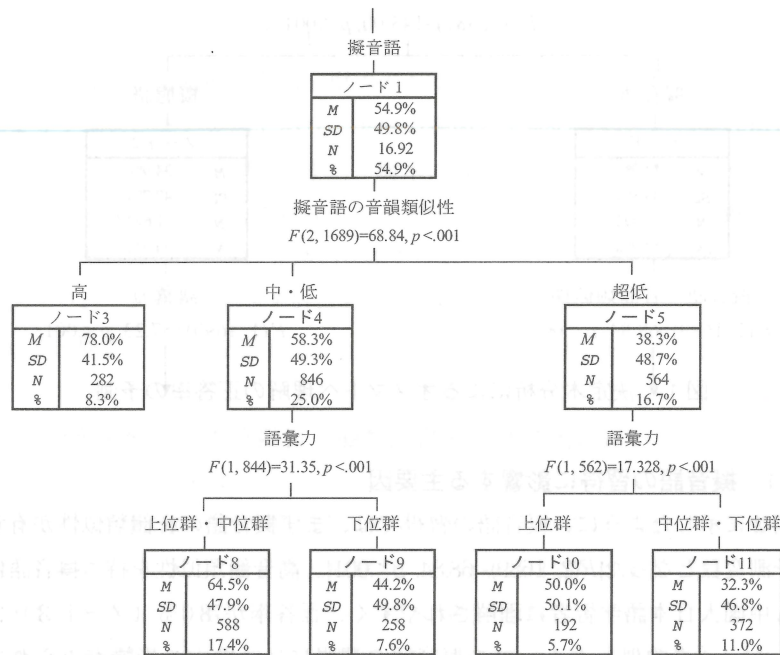


図2 擬音語としてのオノマトベの理解を予測する決定木分析の結果

擬音語の決定木分析の結果からわかるように、擬音語の習得において、擬音語の音韻類似性は強い習得要因となり、さらに語彙力も影響した。中国語を母語とする日本語学習者は日中両言語の擬音語の音韻類似性に基づいて日本語の擬音語を理解していると思われる。また、語彙知識も擬音語の習得に影響している要因の一つであり、音韻類似度のやや低い擬音語の習得を支え

ている。

3.3.2 擬態語の習得に影響する主要因

擬態語の正誤についての決定木分析の結果は図3に示した。語彙知識の影響が最も強い予測変数であった $[F(1, 1690)=57.23, p<.001]$ 。つまり、擬態語の習得には、語彙知識が強く寄与していた。上位群の正答率は46.9%（ノード6）で、中位群・下位群の正答率は28.7%（ノード7）と低かった。

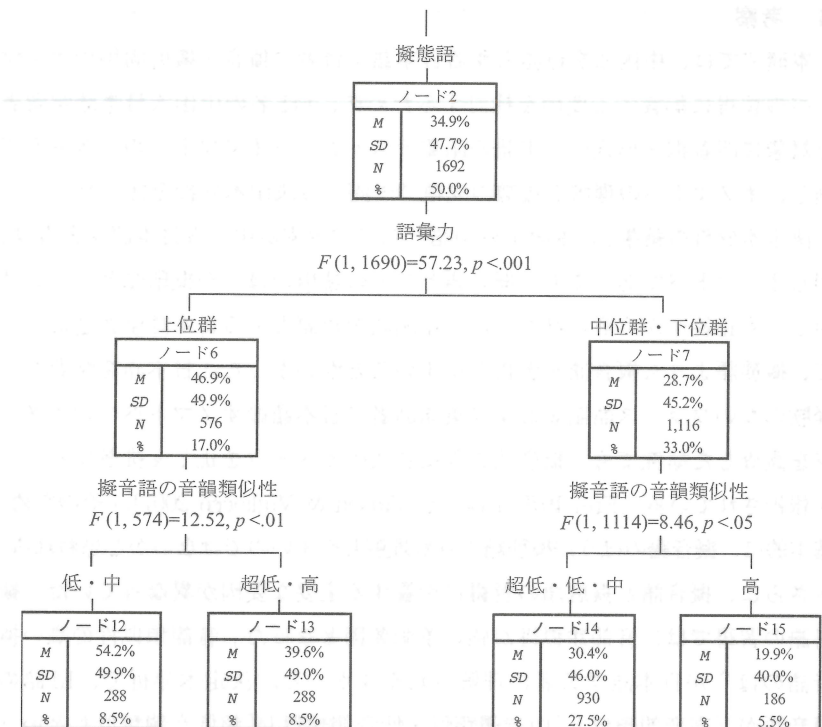


図3 オノマトベの擬態語の理解を予測する決定木分析の結果

特に、高音韻類似性のオノマトベが擬態語として使用された場合、学習者全体の正答率が低かった。それは、日本語の擬音語であれば、中国語の発音の似た高音韻類似性の擬音語から類推して容易に意味が理解できるが、擬態

しかし、本研究の12語のオノマトペの中で、音韻的に類似していたのは、「ばんばん」と「がんがん」の2語しかなかった。そのため、学習者は両言語の音韻的な類似性により意味を予測するという方略を使うことはできないと予想される。したがって、中国人日本語学習者は教室外で漫画、アニメ、ドラマ、映画などを介して日本語オノマトペを習得していると考えられる。

さらに、本調査の中国人日本語学習者に対する質問紙調査では、「日本語オノマトペが難しい」と答えた学習者は114名、「日本語オノマトペを学習する必要がある」と答えた学習者は128名、「日本語オノマトペを上手に使用したい」と答えた学習者は125名であった。オノマトペも日本語教育で扱って欲しいという声は多い。その際に、オノマトペの擬音語と擬態語では、異なる教授・学習のアプローチが考えられよう。まず、擬音語では、日中両言語の擬音語において、音韻的に類似性が高い場合には、両言語の語彙を比較しながら教えることで、擬音語の習得を促進できると思われる。しかし、音韻類似性が低いかあるいは類似した擬音語が中国語にない場合には、個々の語彙として学習させる必要があろう。また、擬態語については、「がんがん」や「ばんばん」のような日中両言語での音韻類似性が高く、擬音語の学習が先行している場合があるので、同じオノマトペの擬音的な意味と擬態的な意味をセットで教えることで、習得が促進されると思われる。さらに、教室環境または教室外の学習でドラマ、アニメ、漫画などで日本語オノマトペを目にした場合に、辞書でオノマトペの意味を常に調べると答えた学習者は16名に過ぎない。単に楽しむだけでなく、オノマトペの意味を辞書で確認するように指導すべきであろう。

参考文献

- 飯田香織・玉岡賀津雄・初相娟 (2012) 「中国人日本語学習者の音象徴語の理解」『日中言語研究と日本語教育』5, 46-54.
- 金慕箴 (1989) 「中国における日本語の擬音語・擬態語の教育について」『日本語教育』68, 83-98.
- 現代漢語大詞典編委会 (2010) 『現代漢語大詞典』(1-6巻), 上海: 上海辞書出版社

- 国際交流基金・日本国際教育協会 (2007) 『日本語能力試験出題基準 (改訂版)』(第4版), 東京: 凡人社.
- 玉岡賀津雄 (2017) 「音象徴語と動詞の共起パターンに関する新聞コーパスの共起頻度と母語話者の産出との類似性の検討」『計量国語学』31(1), 20-35.
- 田守育啓・ローレンス スコウラップ (1999) 『オノマトペー形態と意味一』, 東京: くろしお出版
- 中石ゆうこ・佐治伸郎・今井むつみ・酒井弘 (2011) 「中国語を母語とする学習者は日本語のオノマトペをどの程度使用できるのか: アニメーションを用いた産出実験を中心として」『中国語話者のための日本語教育研究』2, 42-58.
- 日本語学習辞書支援グループ (2015) 「日本語教育語彙表 ver. 1.0」(<http://jhlee.sakura.ne.jp/JEV.html>).
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) 「日本語語彙テストの開発と信頼性: 中国語を母語とする日本語学習者のデータによるテスト評価」『広島経済大学研究論集』34(1), 1-18.
- Akita, K. (2009) *A Grammar of sound-symbolic words in Japanese: Theoretical approaches to iconic and lexical properties of mimetics*. Ph.D. dissertation submitted to Kobe University, Japan.
- Frei, H. (1970) *Cinquante onomatopées japonaises*. in D. Cohen (Ed.), *Mélanges Marcel* (pp. 359-367), The Hague, the Netherlands: Mouton Publishing.
- Hashimoto, T., Usui, N., Taira, M., Nose, I., Haji, T., & Kojima, S. (2006) *Neuroimage*, 31, 1762-1770.
- Imai, M., Kita, S., Nagumo, M., & Okada, H. (2008) Sound symbolism facilitates early verb learning. *Cognition*, 109(1), 54-65.
- Iwasaki, N., Vinson, D. P., & Vigliocco, G. (2007) What do English speakers know about *gera-gera* and *yota-yota*?: A cross-linguistic investigation of mimetic Words for Laughing and Walking. *Japanese-Language Education around the Globe*, 17, 53-78.